

6月13日(木)12:00からスタジオ CRT で収録

日本経済新聞 6月12日電子版〈池上彰の大岡山通信、若者たちへ〉  
「どんな本を読んだらよいか。自らの問い、見つけよう」

開倫塾  
塾長 林 明夫

1. (1)読みたいものを読みなさい。  
(2)何に関心があるのかわからない。どのくらいのレベルかわからない。だから、まずは、本屋に行きなさい。関心のあるコーナーを眺めれば、何か発見があるはずです。
  2. (1)ユーチューブの教材を倍速で見てわかった気になっても、見たことを説明できない。  
(2)本の読み手は活字を追いながら、著者との間で双方向で対話をしている。  
(3)言葉の意味を探し、読んだのちに新たな疑問を追い求める。  
(4)その積み重ねで、知識が刻まれ、理解が深まる。
  3. (1)大事な本は繰り返し読むとよい。  
(2)一度読めば、どこに何が書いてあるか頭に入る。  
(3)二度読めば細部にも目が行く。  
(4)我々には先入観もあるし、その都度の関心で、注意の向く先も変わったりします。  
(5)同じ街に何度も訪れると、その都度発見があるのと同じですね。
  4. (1)哲学は、問いから始まります。  
(2)当たり前に見えることを、疑い、探求するには、訓練が必要かもしれません。  
(3)わからないと正直に言えることが大事。
  5. (1)日常の疑問を大切にすること。  
(2)学生のころは、「知の虚栄心」みたいなものがあり、同級生の知識に刺激されることが学びのきっかけになりました。
  6. 知ったかぶりをしながらでも、疑問を広げ深めていけば、学ぶ甲斐(かい)もあるというものです。
- ◆素晴らしい内容です。特に著者との対話で意味を探し「知識を刻む」「理解を深め」、「自分のことばでいえる、説明できる」ようにすること、「疑問を深める」こと、の大切さが実感できる文章でした。
7. 開倫塾では、「創業 45 周年事業」として、2024 年 10 月から、創業 50 周年の 2029 年 10 月までの 5 年間かけ、
    - (1)「辞書教育」
    - (2)「新聞教育」
    - (3)「読書教育」
    - (4)「図書館教育」を行い、「読解力」を育成します。

8. (1)「辞書教育」で「ことばの力」「語彙力」を！  
(2)「新聞教育(NIE)」で、「自分で考える力」「批判的思考能力」を！  
(3)「読書教育」で、「思慮深さ」「省察力」を！  
(4)「図書館教育」で、「知的生活習慣」を！
  
- 9.「積小為大(せきしょういだい)」です。コツコツと、この 4 つを積み上げる取り組み(チャレンジ)を継続すれば、必ず、高い志「読解力を育てる」ことが達成できます。

ごいっしょにがんばりましょう！！

よろしく願いいたします。お身体、くれぐれもお大切に。

— 2024 年 6 月 12 日記 —